

## 令和2年度フェロー認定（11名）

氏名	浅井 光太郎
認定時の所属	三菱電機株式会社
抱負	<p>工学にはその成果を以って社会と人々を幸福にする使命があり、工学研究者には研究および開発さらに社会実装に伴う喜びがあります。僣越ながら、私自身、専門技術分野に対する関心と社会が求める実装要求に従い、所属組織の業務と複数の学会の活動に携わって参りました。現在の工学はより広範に、地球環境や倫理の問題を含めて人文科学分野の方々との意見交換を含めた思考が必要な状況と認識しています。日本工学会において活動の機会を与えられましたら、工学者の倫理、工学関係学会が柔軟に連携できる仕組み、学会会員が自ら所属する分野別学会だけでなく工学共通の知見に触れられる仕組み等の一部また微力なりとも尽力したいと考えています。</p>
氏名	遠藤 龍司
認定時の所属	職業能力開発総合大学校
抱負	<p>技能科学の提案と推進          現職のころ勤務先（職業能力開発総合大学校）での教育と研究は工学（技術）のみならず技能への展開も重要なテーマであり、教授陣は国内の技能五輪や国際技能五輪に技術委員長や技術代表および競技委員として参画しており、こうした競技大会においても技能研究や技能教育の成果が活かされていた。しかし、こうした技能にかかわるなかで、体系的に技能教育や技能研究を展開するためには、技能を分析し、見える化し、数値化することにより技術的な展開を図る必要性が生じていた。そこで筆者は職業能力開発総合大学校において能力開発研究会（後に技能科学研究会に変更）を組織し、技能科学研究を仲間とともに提案した。多くの技術は、技能に支えられているが、一般に技術より評価されにくく暗黙知によって成り立っている技能であるが、技術と同様に科学的な方法を付加することより教育や伝承を容易にしようとする新たな工学分野が技能科学であり、先進的な工学技術の発展を支えようとするものである。</p> <p>こうした技能科学の詳細は、前職において組織した技能科学研究会編として出版した「技能科学入門」（日科技連出版）に詳しいが、例えば、技能の見える化にあたって、IE的アプローチ、認知科学的アプローチ等のほか、技能伝承の容易化に当たっては、習熟理論やVR、ARの活用法、さらには技能の普遍化の工学的アプローチとして様々な工学分野における技能科学の考え方が述べられている。近年、第4次産業革命が提唱され、ビッグデータを活用したAIやIoT等が注目されているが、こうした先端技術の推進に当たっては、新たな先端的な技能が必要になり、したがって、その教育方法や伝承方法を確立することは急務である。筆者は技能科学がその方法の一つであると思慮しており、工学の発展に寄与することを目的に情報を発信していきたいと考えている。これを要するに、建築分野をはじめとする様々な工学分野に関する技能科学の調査・研究を通して、特にものづくりの技能を科学する技能科学の情報を発信していくことに寄与したいと考えている。（令和6年8月更新）</p>
氏名	河東 晴子
認定時の所属	三菱電機株式会社
抱負	<p>日本工学会は、日本で最初の工学系学術団体、学協会を会員とする連合体組織という他に類の無いユニークな組織であり、その特徴を活かした活動を行えば、我が国の工学・工業の発展、ひいてはグローバルな社会の中での豊かで安心できる社会の発展に寄与できると考えている。</p> <p>下名は長年に渡り企業で情報通信に関する研究開発に携わって来た。この間、研究所での基礎研究、製品の開発、工場での製造・試験、電子情報通信学会・IEEE等国内外の学会活動、総務省情報通信審議会等政府機関の委員会活動、米国カリフォルニア大学バークレー校での客員研究員、海上自衛隊幹部学校での客員研究員、神奈川工科大学非常勤講師等、産官学の場で工学の発展に務めてきた。これらの経験を元に、日本工学会の活動の活性化に寄与していきたい。</p>

氏名	菊池 喜昭
認定時の所属	東京理科大学
抱負	<p>国民の安全と豊かな生活の基盤を構築するための技術、学問として土木工学の分野の研究に従事してきているが、私はその中でも、基盤を支える地盤工学の実務と研究に従事してきました。この分野の研究が社会の発展に寄与しているという自負があるものの、多くの自然災害、中でも地盤に関わる災害が後を絶たないことには大変歯がゆい気がしております。また、地盤工学の技術そのものや地盤工学的な考え方が、現在および将来のグローバルな課題の解決に役立てることはないかということの日頃考えております。</p> <p>地盤及び地盤材料は、土木技術者が取り扱う材料の中でも技術者のコントロールが効かないものの一つと考えています。それはこの材料がそもそも自然に与えられたものであるというところに行きつきます。このため、地盤工学の技術開発では常に原理原則に基づいた改善が要求されていると思っております。この際、世の中の新しい技術を上手に取り入れていくことが重要となると考えられますが、これがなかなか難しいと感じることが多いです。私は地盤工学を主分野とする技術者ですが、技術者としてより幅広い知見を持つことが必要と考えており、その意味から工学全般に関わる専門家集団である日本工学会の場で多くの分野の知己を得、知見を広げることで社会に貢献できる技術者となるよう努力したいと考えています。（令和6年8月更新）</p>
氏名	後藤 春彦
認定時の所属	早稲田大学 理事・教授
抱負	<p>日本工学会の長年にわたる活動に敬意を表し、その主旨を十分に理解するとともに、現代社会の抱える課題の解決に向けて貢献することをめざし、微力ながらわが国の工学・工業分野における学術・技術の発展と、後進の育成に寄与したいと思っております。</p>
氏名	小林 正生
認定時の所属	株式会社IHI
抱負	<p>日本工学会は日本の工学系約100学会から構成されており、工学全分野を束ねるリーダー的存在となっている。本学会のフェローとしては、専門学会の狭い枠にとらわれない幅広い活動、例えば、工学分野全般における教育や技術開発のあるべき姿についての調査検討、それを具現化するための政府・民間の関連機関への働きかけ、また技術者の能力開発や地位向上等について尽力していきたい。</p>
氏名	佐々木 直哉
認定時の所属	株式会社日立製作所
抱負	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工学や計算工学を広く社会や産業界に浸透させて、日本の産業競争力強化に向けた貢献。</li> <li>・特に、絶滅危惧種の技術や学問の継続、活性化、地域や地方の中小中堅企業への啓発や技術普及を支援。</li> <li>・人材育成（博士取得啓発等）</li> </ul>
氏名	松方 正彦
認定時の所属	早稲田大学
抱負	<p>工学分野が現在の生活に密着して重要であることはもちろんですが、パリ協定の目標達成、また1.5℃目標達成に向けて、またAI・IoT社会を先導するためなど、夢や目標を達成するための学術分野として工学の重要性とますますの地位向上の必要性は増すばかりの状況にあります。日本工学会は、我が国の工学に関わる産官学の連携のノードとして大きな役割を果たしています。今後とも、日本工学会の活動を支援する立場として、積極的に役割を果たしていきたいと考えます。</p>

氏名	松村 秀一
認定時の所属	東京大学
抱負	<p>これからの日本にとっても、或いは現在経済成長途上にある多くの国々にとっても、高齢化の急速な進行が避けられないことは明らかであり、その際には、人口構成が若く経済成長が始まったばかりの地域が新規の開発や建設活動によって全く新たな環境形成を進めていくのとは異なり、既に建設されこれまで使われてきた建物や社会基盤を、時代の変化に適応する形で改変しながら効果的に運営・経営する仕組みと方法が大きな意味を持つ。「既存ストックの有効活用」と言われる事柄である。</p> <p>ところが、長らく新規の開発や建設に知的資源や投資を集中してきた産官学界も、またそれを支える関連工学も、既存ストックの有効活用という時代の課題に関して、目を見張るような貢献をなし得ていないのが現実である。</p> <p>既存ストックの有効活用には、これまでの工学が十分に蓄積してきていない、人の暮らしや価値観の変化に関する知見、それに対応してストックを更新することなく効果的に改良する技術、更には人々の生活環境の運営に伴う財政上の負荷や環境面の負荷の評価とそれを減ずる方法に関する新たな知見等が求められる。これらの新たな課題やそれが前提とする豊かな社会像について、専門分野の枠を超えた新しいタイプの工学の担い手チームを構成し、画期的な成果に繋げるための活動に取り組みたい。</p>
氏名	丸山 久一
認定時の所属	長岡技術科学大学
抱負	<p>土木学会より日本工学会のフェローに推薦頂きました。貴学会はわが国の工学の礎を築いてきた学会で、工学関係の学会の大本であると承知しております。その学会において、わが国のみならず、世界の工学分野の発展に微力ながらも貢献できることは、大変光栄に存じます。現在、工学分野も大いに発展し、細分化も進んでおりますが、人々の生活や地球資源の持続可能性を担保する上では、工学全体を俯瞰し、適切な指針を示す貴学会の活動は、非常に重要なものと認識しております。優れた先輩の跡を継ぎ、社会の発展に寄与したいと思っております。</p>
氏名	山口 博
認定時の所属	関東電気保安協会
抱負	